



令和 6 年 8 月 29 日  
午前 午後 11 時 32 分 受領

No. 1

議長	事務局長	係	令和 6 年 8 月 29 日

愛南町議会議長 佐々木 史仁 殿

愛南町議会議員 少林 法子

## 一般質問通告書

次のとおり通告します。

質問の要旨	答弁を求める者
<p>1 2050年カーボンニュートラルの実現に向けての取組について。～町民の意識及び行動変容を中心に～</p> <p>5月24日の議員全員協議会で、環境衛生課から「愛南町再生可能エネルギー導入目標策定支援業務」の説明がありました。これは、2050年カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量を実質ゼロ）の目標を掲げ、達成のための方向性と本町における取組を示したものです。具体的な取組として、再生可能エネルギー導入（太陽光発電やバイオガス（廃棄物発電）の促進）と、省エネ施策（全ての部門で省エネ設備や省エネ製品へ順次切り替え）、そして行動変容の3方向が示されています。なお、計画に当たっては、事前に地球温暖化に関する住民アンケートやワークショップを行っています。</p> <p>この中で、中間期2030年を例に挙げて質問していきたいと思えます。2030年の二酸化炭素排出量の削減目標は2013年比46%削減、ほぼ半減を、実質あと6年で達成する計画です。公共施設や産業部門では比較的計画に沿って取り組めるかもしれません。</p> <p>ここでは、町民の意識や行動変容を進めるための施策について、アンケート結果をふまえて質問します。</p> <p>(1) 戸建て世帯の10%、763戸に太陽光発電が目標です。</p>	町長

現在の戸数、課題、戸数を増やす具体策をお示してください。

(2) EV車の目標は乗用車の37% (3,810台) です。現在のEV車台数、課題、達成への具体策をお示してください。

(3) 一般市民の取組としては、省エネのための行動変容を世帯の30%が実施するが目標です。しかし、アンケート結果では、地球温暖化対策について「多少の不自由や負担があっても実践したい」と答えたのは23.8%。また、実施に当たって求めることとして、①「補助金や助成金」、②「個人が実践可能な省エネ方法やメリット等の情報提供」、③「多数が協力参加できる仕組み」、④「相談窓口や勉強会」が挙がっていました。

これら4点を踏まえ、どのように町民の意識と行動変容を進めていきますか。具体策をご説明ください。

## 2 文化財を災害から守る取組について

本年6月25日、愛南町にある縄文時代遺跡「平城貝塚」が新たに国の史跡に指定されました。平城貝塚は明治24年に発見されて132年目。これまでの発掘調査で、14体の縄文人の人骨、装身具、平城式土器、石器等多くの出土物があり、西日本の代表的な貝塚として学術的に非常に高く評価されています。そして、これらの多くが展示・保存されているのが平城公民館です。問題は、ここが津波浸水域であるということです。近年頻発する自然災害や予想されている南海トラフ大地震等から、貴重な文化財をどう守るか、その方針についてお聞きします。

(1) 浸水だけでなく、自然災害時に被害を受ける可能性のある文化財は他にありますか。

(2) 平城公民館にある平城貝塚の遺物の防災対策をどのようにお考えですか。

町長  
教育長